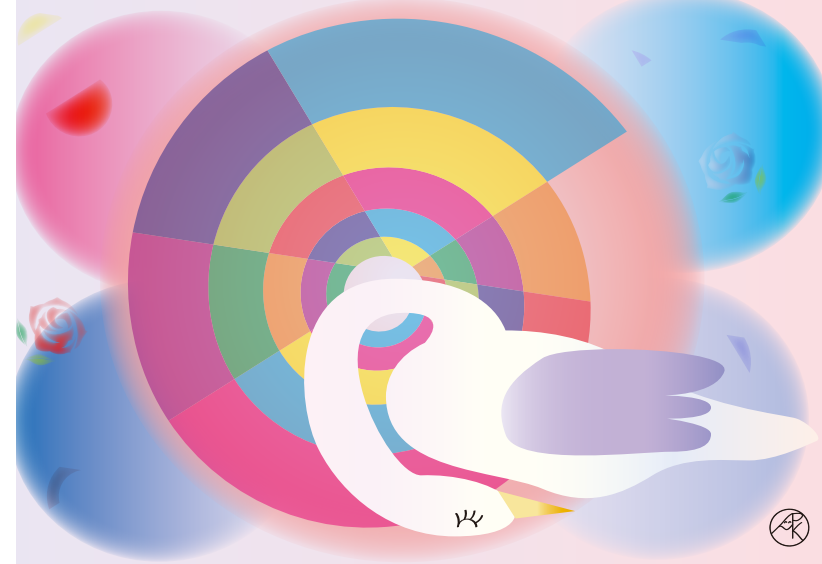




【上段】西尾 亜加梨：「眠る鳥」 illustrator
【下段】佐賀 翼：「パターン1」 紙に色鉛筆

【中部拠点】 ☎420-0031

静岡市葵区呉服町2-1-5 5風来館(ごふうかん)4階
TEL **054-251-3520** FAX **054-251-3516**
【相談受付時間】 平日**10:00～17:00**
mail: mirart@findart.jp

【東部拠点】 ☎410-0801

沼津市大手町1-1-3 沼津産業ビル1階 とも沼津店
TEL・FAX **055-963-9100**
【相談受付時間】 平日**10:00～17:00**

【西部拠点】 ☎430-0929

浜松市中区中央1-12-1 静岡県浜松総合庁舎10階
TEL・FAX **053-458-7600**
【相談受付時間】 平日**10:00～17:00**

ふあいんだー
Findart+
ふじのくに障害者芸術ポータルサイト



<https://findart.jp/>

表紙 作品：暮林 匠：「模写Ⅱ」 紙にパステル
デザイン・監修：遠藤 次朗（みらーとアートディレクター）



Look@me! でのワンシーン

ご挨拶

当法人が、「静岡県障害者文化芸術活動支援センター運営事業」の委託を受け、平成30年9月19日に静岡県障害者文化芸術活動支援センター「みらい」を開設し、今年度で7年目となりました。

この事業は、障害のある人の文化芸術活動の普及を通して、障害のある人の社会参加と、障害や障害のある人に対する県民の理解促進を目的として実施しています。

今年度は、パリで開催されたオリンピック・パラリンピックにおける日本選手の活躍で、国民に多くの感動がもたらされました。そして、障害のある方々の文化芸術活動も大きな広がりを見せ、多くの感動を生み出しました。創作活動に取り組まれたアーティストの皆さん、支援してくださった関係者の方々、温かく見守り、応援してくださった多くの方々によって、数々の素晴らしい作品も生まれ、様々な発表の場や体験の機会に繋がりました。

みらいとしては、地域に根差した支援を行うために、静岡県東部地区（沼津市）、中部地区（静岡市）、西部地区（浜松市）の3拠点体制で支援に取り組んできました。3拠点がそれぞれ障害福祉サービス事業所や特別支援学校、関係団体などを積極的に訪問し、広域的な支援体制づくりを目指しました。相談や研

修会、展覧会、オープンアトリエ、ワークショップなどの開催によってネットワークを構築し、専門的な知識を支援活動に反映させるために、文化芸術活動に関する多様な分野の専門家と連携した活動を展開することができました。

今年度も大学やデザイン専門学校などの教育機関とも積極的に連携し、障害のある人や福祉事業所と共にイベントを開催することができ、支援の輪をより広げることができたと感じています。また、企業や報道関係者などの新たな方々からも相談が寄せられ、様々な方が障害のある人の文化芸術活動に関心を寄せていることが感じられました。

毎年開催している「look@me!（ルック・アット・ミー）」は鑑賞の機会に焦点を当て、自由な環境（出入り自由・声出しOK等）でのフルートアンサンブルコンサートの鑑賞や、指揮者体験などのワークショップを実施しました。

最後に、様々な事業を行っていく中で、今年度も多くの方にご協力をいただき、心からお礼申し上げます。今後も引き続きこの経験を活かし、障害のある人の文化芸術活動支援の充実を図っていきたいと考えております。

今後ともご支援ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

認定特定非営利活動法人

オールしずおかベストコミュニティ

理事長

越膳 徹

【上段左】地域活動支援センター M ネット東遠オープンアトリエ：画材でカラフルになった手を見せ合う参加者
 【上段中上段】のびる作業所オープンアトリエ：題材のひまわりを手にスマイル！
 【上段中下段】ミルキーウェイオープンアトリエ：完成した巨大魚【上段右】ワークショップマナ：題材の小鳥を見つめる参加者



【左上段左】お面ワークショップ：完成したお面をかぶってポーズ！
 【左上段右・左下段】サンサンいわた東原オープンアトリエ 上：作品を手にピース！下：気持ちよさそうに描く参加者
 【右上段】地域活動支援センターしおかぜオープンアトリエ：完成作品
 【右下段】さしだ希望の里オープンアトリエ：完成した作品を持って記念撮影



杉本 英司(waC)：「パンダ」 紙にペン

風を創る ひとたち 7

INDEX

ページ

01 ご挨拶

03 INDEX

風を創るひとたち巻頭特集

05 個性を尊重し
 支援と成長が共にある学び舎、特別支援学校
 静岡県内の特別支援学校3校の教員に聞く、
 それぞれの特性を生かした美術授業への取り組み

1. 生み出す 創り出す Open Atelier

13 オープンアトリエ開催報告

2. 伝える Look@me! Findart

17 発表の機会創出
 パフォーミング・アーツ Look@me! 2024報告

23 ふじのくに障害者芸術ポータルサイト
 「Findart(ふあいんだー)」報告

27 みらーと「風を創るひとたち展」活動報告

3. 支える Seminar

31 支援人材育成セミナー活動報告

35 ちょっとCOLUMNコラム
 その瞬間1枚の絵画が私の人生を大きく変えた

4. 支える Workshop

37 ワークショップ活動報告

5. 夢を描く～次年度に向けて～ Message

41 支援コーディネーターからのメッセージ
 東・中・西部支援拠点相談データ

45 1年の活動を振り返って みらーと協力隊からのメッセージ

風を創る ひとたち 特集

個性を尊重し 支援と成長が共にある学び舎、 特別支援学校

静岡県内の特別支援学校3校の教員に聞く、 それぞれの特性を生かした美術授業への取り組み

特別支援学校の教育は、障害のある子どもが自立し、社会に参加できるようにすることを目的としています。

生活や学習上の困難を克服するための生徒一人ひとりに寄り添った支援、個別の丁寧な対応によって各生徒の障害や年齢に応じた教育プランの策定、一人ひとりのニーズや個性に合わせた指導。

これらにより、学習内容や方法が最適化され、学習の幅や自立へ向けたスキル向上が期待できます。

しかし意外にも知られていない特別支援学校の工夫を凝らした取り組み。そんな特別支援学校の現状を美術や芸術への取り組みを通して現場の教諭の皆様にお聞きしました。

「Flower」中川 海航(atelier QUOKKA)

インタビュー質問事項

質問 ① 特別支援学校美術・芸術教育はどのような形で行われていますか？

カリキュラムの現状は？美術部などの部活動は？美術室等の環境は？

質問 ② 学校全体・授業対象・部活動内等に所属する学生の状況について教えてください。

どのような生徒がいますか？障害の内容や程度は？絵や芸術に興味のある生徒はどのくらいいますか？より個性が光る生徒はいますか？

質問 ③ 美術芸術教育を行うにあたっての困りごと・悩み等について

美術芸術を取り入れた授業や活動の中で困っていること、より良い環境を維持継続していくことに必要だと感じていることなど

質問 ④ 呼びかけやメッセージについて

教育現場からのメッセージ。こうなった素晴らしい、是非実現させたいことなど

静岡県立吉田特別支援学校
図書表現課 山田 桃子 先生
図書表現課 山下 蛭 先生

① 特別支援学校美術・芸術教育はどのような形で行われていますか？

高等部知的学級では、美術の授業が年間20時間設定されています。準備や後片付けの時間も含め、70〜120分で1回の授業が行われていることが多いです。部活動は1か月に3、4時間設定されています。今後の人生の中で、創造的な活動を取り入れる良さを体感してほしいという願いを込めています。制作を気軽にできることを知ってもらうために、生徒が描きたいものを描きたいように表現できるような画材や本を用意し、環境づくりをしています。

また、肢体不自由学級では、週1時間、または、各学期に1週間〜2週間の単元を設定して行っています。

② 学校全体・授業対象・部活動内等に所属する学生の状況について教えてください。

表現技能については、幅広い発達段階の実態があります。肢体不自由学級での造形活動では、まず自然物（植物、石など）や素材（絵具、墨、粘土等）に直接触れながら、五感を使って味わうことで、素材や色・形などの違いや性質に気付いたり、興味をもったりしていきます。そこから、より素材を味わったり、自分のイメージを広げていったりしながら、表現することを知っていったり工夫したりしています。どの児童も自分なりの表現を見つけ、教師の支援や補助具を使いながら、描いたり、作ったりしています。



③美術芸術教育を行うにあたっての困りごと・悩み等について。

まず1つは本来の良さと想像力を十分に発揮できるための時間の確保です。完成から逆算して制作時間を調整することは、障害をもつ子にとってとても難しく「早く描かなければ！」という焦燥感が活動のバリアとなってしまうがちです。他の教科との兼ね合いもありますが表現時間のゆとりの作り方が課題です。



静岡県立中央特別支援学校

高等部 K・N先生

①特別支援学校美術・芸術教育はどのような形で行われていますか？

私が所属する高等部では、「美術」という科目で行う授業は1週間に1回あります。この科目を履修する生徒は卒業後、企業やA型支援事業所へ就労したり、就労移行支援などを利用したりすることを目指す生徒です。身体障害がありますが、自ら発想・構想して表現活動に取り組んでいます。

この他に、科目名は「美術」ではありませんが、本校では授業の中で創造活動を行うことはよくあります。いわゆる美術・芸術教育として行う内容ではないため、内容や目標は多岐に及びます。参加する生徒は身体障害と知的障害を併せもつ方たちが多いです。卒業後はB型支援事業所や生活介護事業所等を利用して社会参加することを目指しています。

部活動については本校においては美術部に限らず、すべての部活動を実施していません。外部の方との連携で行う授業は、年度によっ

「ティラノサウルス」関谷早央(waC)
金曜ドラマ「ライオンの隠れ家」に使用されました



2つ目は「毎年やっているからこの活動をする」ではなく、児童の実態や発達段階、生活年齢に合わせて素材や道具、テーマを検討し、年間計画を立てたり、他学年との学びのつながりを考えたりしていくことが大切だと感じています。そのために、芸術教育の専門家や表現活動をしている外部の方などから助言をいただける機会があると嬉しいです。

④呼びかけやメッセージについて

本物に触れる経験をしてほしいです。形や

て異なりますが、年間で複数回あります。こちら「美術」の科目ではない授業で行うことが多いです。(バルーンアートやフラワールンジメント)

②学校全体・授業対象・部活動内等に所属する学生の状況について教えてください。

本校は身体障害や病弱がある児童生徒が通う特別支援学校です。また、知的障害を併せもつ児童生徒、医療的ケアを必要とする児童生徒も在籍しています。

絵に興味がある児童生徒は一定数在籍しています。描いたり造ったりすることが好きな方、作品(写真や映像も)を見ることが好きな

色彩が派手でわかりやすい表現の方が興味を持つかもしれません。自分の目で実物を見ることは、今後の作品に良い影響があると思います。制作の過程を大切に、子どもたちの自己肯定感や自信になるきっかけを、美術を通して育てていきたいです。どの子もその子らしく、のびのびと表現活動を楽しんだり、芸術活動に親しんだりできるように、授業づくりをしていきたいと思っています。これからも、きらきら・わくわくする子どもたちの素敵な表現物たちを地域の方に発信していきたいと思っています！

方、自分の作品をもとにした人との関りが好きな方、素材に関わることや素材を加工する行為が好きな方など、楽しみ方は様々です。また、芸術として広くとらえると、音楽(楽器、歌唱、鑑賞)が好きな方も多い印象です。

個性が光る児童生徒が多いと感じます。授業の目標からは反れていても、むしろそういうときに生み出される作品が個性的で魅力的だと感じることがあります。

③美術芸術教育を行うにあたっての困りごと・悩み等について。

学校での美術・芸術教育は、素晴らしい作品を作ることや芸術家を育成することを目指す





「競馬」赤池 僚也(atelier QUOKKA)

わけではなく、美術・芸術を通して豊かな人間性や、考えて表現する力を育むことなどを目指しています。作品は成果ではあるものの結果に過ぎません。評価する際は結果だけでなく、制作過程をとても大切にしています。そのことが伝わりづらいつと感じることがあり悩みではあります。

作品発表の場について、本校は幸い充実しています。高等学校文化連盟が行う作品展、肢体不自由児協会が行う作品展、本校独自に行う作品展など発表の機会が多くあり、むしろ作品が不足することがあるほどです。しかし、作品1点1点の魅力を最大限に伝える作品展となっているかと問われると不安があります。校内掲示の延長線上に展示がされていると感じることがあります。感覚的な部分であるため難しさがあると思うし、より良く展示したいと思っても予算や時間がないこともあります。

卒業後を思うと、創造活動を継続的に行う場に巡り合うためには、かなりの労力自分に向う場を探す手間がかかることが困りごとです。美術の分野ではスポーツ協会のような母体となる大きな団体があるというよりは、

個々の事業がそれぞれで所在している印象です。個々の事業をつなぎ、総観できるプラットフォームがあるといいなと思います。

卒業後、個人で創造活動を続けている場合は、作品の保管にも困ることがあるのではないかなと感じます。事業所でも家庭でも学校でも作品が増え続けることに対応するには限界があります。

④呼びかけやメッセージについて

美術は人の個性の数だけ正解があると思います。目にした作品の良さは考え方・捉え方次第で見え方が変わってきます。美術・芸術教育では、表現者は自分の良さや社会との関わり方を見つめる考え方・捉え方を学び、鑑賞者は作品と作者を理解する考え方・捉え方を磨くことが大事にできると、作品を通して作者と社会が豊かにつながり合うことになると思います。(美術だけでなく、特別支援教育全体がそうであるとも言えると思います。)うまくいかなことや自分の感覚と異なるところばかりに気をとられては、もったいないと思います。

静岡県立浜松特別支援学校 城北分校 市川 夢太 先生

①特別支援学校美術・芸術教育はどのような形で行われていますか？

城北分校には高等部1年～3年の生徒が在籍しており、1年生、2年生は2学期に15時間程度、3年生は1学期に10時間程度美術の授業を行っています。一年を通して美術の授業があるわけではなく、様々な行事との兼ね合いで音楽を行う時期と美術を行う時期を分けて設定しています。

昨年度の3年生の授業では、修学旅行で訪れる沖縄にちなんで「紅型染」という技法を使って好きな絵柄をトートバッグに描きました。シーサーやジンベエザメの他に首里城をモチーフに選んでデザインした生徒もいて、図工美術が苦手な生徒も活動を楽しんでくれたと思います。

高校生になると、「上手に描きたい」「きれいに作りたい」という気持ちが大きいので、美術が苦手な生徒も楽しめるように、技能を

高めることを目的とするより、学校行事など身近なものを題材にして、表現する楽しさを味わえるように工夫しています。

部活動についてはサッカー部と美術部があり、昨年度は美術部に1年生が6名、2年生が1名、3年生が3名、合計10名が所属していました。

外部との連携について、昨年度は実施しませんでした。過去に地域の書道家の先生をお招きして一緒に授業をおこなったことがあるようです。

私の過去の経験では、美術の授業の中で美術館へ校外学習を行ったり学芸員を招いて一緒に授業を行ったりすることもありました。

② 学校全体・授業対象・部活動内等に所属する学生の状況について教えてください

城北分校には知的障害の生徒が通っています。卒業後の進路は学年によって違いがありますが、企業就労をする生徒が比較的多い学校と言われています。

特に美術部の生徒は絵を描くことが好きですが、それ以外にも創作活動に高い関心をもっている生徒はいます。

々に生徒たちの才能を知ってもらえる非常に効果的な取り組みだと思います。このような取り組みを理解してくれる人や企業が増え、より多くの方々に魅力を伝えていけるように、学校現場からも積極的に発信したいと考えています。



個性が光る生徒については、2月にグラランシップで行われた第35回特別支援学校高等部合同作品展で教育長賞を受賞した生徒がいます。彼はセロテープを使って立体的な彫刻を作ります。受賞した作品は「獅子」という題名で、ライオンをモチーフにして制作しました。このほかにも、並外れた集中力で細かな切り絵の作品を作る生徒や、釣りに使うルアーを自分で作ってしまう生徒もいます。

③ 美術芸術教育を行うにあたっての困りごと・悩み等について

美術の授業が生徒の感性を育て、部活動が生涯学習の充実に寄与していることは確かなのですが、高等部の教育では進路指導や生徒指導などやるべき事柄が他にも多くあるので、美術の授業や美術部の活動にどれくらいの時間を使って、進路指導や生徒指導にどれくらいの時間を使うのか、そのバランスや優先順位にいつも悩んでいます。

④ 呼び掛けやメッセージについて

特別支援学校には非常に優れた才能をもった生徒たちが多く通っています。そうした生徒たちの良さをこれからも多くの方々に発信できると嬉しいです。

今年度、みらいの方々から、「irrodori 作品展」を御紹介頂きました。県西部でこうした取り組みはそれほど多くないので、優れた才能を多くの方々に見て頂く貴重な機会だと感じています。

他にも「まちじゅうアート」などは、多くの方





自己表現の機会を提供するオープンアトリエ

東部

みらいと東部
支援コーディネーター 伊藤 享子

福祉事業所での利用者さんの活動は事業所の種類や支援の目的によって異なりますが、今年は就労継続支援B型事業所、生活介護事業所、また医療的ケアが必要な重症心身障害児を対象とされた事業所と様々な福祉事業所で開催させていただきました。

意欲的に取り組んでいただきました。身体を使うことが難しい場合は、身体の動きに合わせた創作の仕方、また得意な作業を取り入れて制作する方法を一緒に模索し、新たな発見も多くなりました。でき上がった作品を観て利用者さんの表現を感じとり、「展示会に出展し多くの方に観てもらいたい」といった要望も聞くことができたオープンアトリエ。今後も可能性を広げる支援をしていければと思います。



【上】陽光の園(熱海市)オープンアトリエの様子【左上段】ミルキーウェイ(沼津市)オープンアトリエの様子
【左中段】ワークホーム・アップル(小山町)オープンアトリエの様子【左下段】吉原つくし(富士市)オープンアトリエの様子

1. 生み出す 創り出す Open Atelier オープンアトリエ開催報告



福祉事業所にアートの準備を携えて
みんなで楽しむアートの体験

東伊豆ワークセンター(東伊豆町)オープンアトリエの様子



出張型オープンアトリエ

今年度も支援コーディネーターが福祉事業所や福祉関係団体に出張して、オープンアトリエを開催しました。新型コロナウイルス感染症による様々な制約の中で、1回につき1つの事業所に限定し、支援コーディネーターが画材を持って出かけていく方法をとっていましたが、これが福祉事業所からの評判が良く、自粛が緩和された今年度も継続して実施しました。出張型オープンアトリエのメリットは、画材を持参して訪問するので福祉事業所側の負担が少ないこと。そして、職員も積極的に関わることにより、オープンアトリエのノウハウを得ることができ、今後は自主的なアート活動を進めることができるという、支援センターの活動趣旨に沿った支援活動が可能になる点にあります。

今後、これまでアートに触れる機会がなかった人が気軽に参加できるよう、アート活動の支援の輪を広げていきたいと思っています。

中部

みらいと中部
支援コーディネーター 田代 大輔

支えるひとの熱意が場を動かす

昨年度に引き続き継続してオープンアトリエを開催する場所が多い中、初めての開催となる施設もあり、新たな出会いと発見に満ちた時間を共有させて頂きましたが、今年度は特に職員の皆様の熱意を感じました。

「1人だけでなく、沢山の利用者さんにアート活動を実践してほしい」「少しずつ作品を制作して、ゆくゆくはふじのくに福産品として商品化したい」といった前向きなお考えを持つ事業所さんや担当者の方が多く、思い描く形に少しでも近づけられるようにこちらも準備しました。

長く継続して開催していると、1人1人の個性や感性を知

ることができ、またその姿を見て他の利用者さんや職員さんも感化され、相乗効果でアート活動が盛り上がりつつあるような雰囲気を感じます。完成作品を展示会に出展する事で「どうしたら、作品の良さを引き出す展示ができるか?」「どうしたら、作家さんを知ってもらえるのか?」を考える事にも繋がります。オープンアトリエはアート活動のきっかけとなるような活動ですが、そこからさらに作家さんらしさを発見し、伸ばして行ける機会となっていると嬉しいです。

西部

みらいと西部
支援コーディネーター 鈴木 結子



【左・右上段】ラポールみなみ(静岡市)オープンアトリエの様子
【右下段】ともの家(静岡市)オープンアトリエの様子



あらゆる方が気軽に社会参加できるように

発表の機会創出には大きく分けて、美術分野の発表の機会と舞台芸術分野の発表の機会があります。「パフォーミングアーツLook@me!」は、舞台芸術分野の支援として、これまで毎年開催してきました。

これまでを振り返ると、第1回、第2回は屋外でのファッションショーを開催。第3回は新型コロナウイルス感染症対策のため、屋内ホールで無観客でファッションショーを開催し、動画配信。第4回もファッションショーを開催する予定で準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言発出を受け、急遽ファッションショーを中止し、少人数でのパフォーマンス映像を制作し配信しました。

第5回は音楽演奏、ダンス、演舞などの多彩なパフォーマンスを自由に発表する場を設け、第6回は宮沢賢治原作「銀河鉄道の夜」の演劇に挑戦し、ひとつの作品をみんなで創り上げました。

第7回の今年度は鑑賞の機会創出とし

2.

伝える
発表の機会創出

コンサートに
行こう!

Mirart Performing Arts

パフォーミングアーツLook@me! 報告
(ルック・アット・ミー!)

Look@me!

ステージで楽団を独り占め!
個性あふれる指揮者たちがプロの楽団と共演した日



【出演】 富士ミューズフルートアンサンブル
【協力】 かやはら音楽事務所、フルートアンサンブル虹 【特別協力】 ふじアートといっしょ(代表:山下いづみ)
【後援】 富士市・富士市教育委員会、公益財団法人富士市文化振興財団



て、障害のある人にも安心してコンサートを鑑賞し、ワークショップ等にも参加できるイベントを開催しました。フルートアンサンブルによる演奏を鑑賞し、指揮者体験、リトミックなどのプログラムを準備しました。客席は常時出入り自由とし、扉には開閉をサポートするドアマンを配置。演奏中に声を出してもOKとし、舞台袖に手話通訳者を配置しました。

指揮者体験では、指揮者の奔放な指揮に振り回されるアンサンブルの様子が観客の笑いを誘っていました。リトミックでは演奏者も飛び入り参加し、舞台と客席が一体となってリズムに合わせて体を動かしました。そして最後は、会場全体で「パプリカ」を歌って踊り終演を迎えました。

また、ホワイエでは障害のある人が描いた絵画を展示し、地元の福祉

会場全体が 熱気と音楽に包まれて

事業所による販売会もあわせて実施しました。

今回のイベント開催にあたり、出演していただいた「富士ミュージックフルートアンサンブル」様や、運営のサポートをしていただいた「虹」様には多大なご協力をいただき誠にありがとうございました。みらいとの支援活動は、様々な専門的スキルを持った方々にご協力いただくことで成り立っています。引き続き各方面の関係機関、関係者等と連携・協力を図りながら支援の輪を広げていきたいと思っています。



コンサートに行こう！

Let's Go to the Concert!

入場無料♪

自由
出入り

手話通訳
あり

OK!
声を出して

ワークショップ開催！
指揮者体験・リトミック

みんなで歌って踊りましょう♪

プログラム

1. アイネクライネ・ナハト・ムジーク (W・A モーツァルト)
2. おもちゃの交響曲 (L・モーツァルト)
3. ラデツキー行進曲 (シュトラウス1世)
4. 指揮者体験
5. リトミック
6. パブリカ みんなで歌って踊りましょう

だれでも楽しめるコンサート

開催日時

2024. **11.16** SAT

【開場】13:00 【開演】13:30 【終演】14:30 (予定)

富士市文化会館ロゼシアター 小ホール

〒416-0953 静岡県富士市夢原町 1750

小ホールホワイエで
絵画展示も同時開催！

ふあいんだー
Findart
ふじのくに障害者芸術ポータルサイト

ふじのくに福産品販売会も同時開催！

ふじのくに
福産品

参加
事業所 富士市社会福祉協議会
ひめな・吉原つくし

たくさんの笑顔に出会えました。
ありがとう！
Thank you





ふじのくに障害者芸術ポータルサイト

ふあいんだー

公開作品
約1,560点
(2025年3月現在)

Findart

<https://findart.jp/>



ふあいんだー WEB サイトにて掲載中の記事をご紹介します。
他にもたくさんの魅力のコンテンツを掲載しています。
是非サイトをチェックしてお楽しみください！



有識者によるおすすめの作品コメント紹介



山田 ケンジ 氏

イラストレーター
挿絵画家、俯瞰図描き

【推薦作品】

「月の詩」 太田 利三（富士市）

力の抜けた柔らかい線描と点描。鮮やかな彩色と筆致。大胆な構図。それらの響き合いに眼が気持ちいい。眼福です。

白絵の具など不透明な絵の具を薄く使った塗り方。下の色がうっすら覗いて美しい。太田利三さんの描くモチーフはさまざまですが、それぞれの絵が物語を想像させるところも挿絵描きとしては魅力に感じました。

絵を観るときに解釈や描かれた背景などを第一に、中心に観ようとする、やはり解るとか解らないとかいうことになってしまい、作品の本質とは離れてしまい残念なことです。

キレイだな！と眼が喜ぶ感覚とか、なんだこりゃ！と心がザワザワするとか。なんでも良いのだけれど、なにか気持ちに引っかった部分の感覚にまづは従ってみるのが良いかなと思います。

このポータルサイト「ふあいんだー」に掲載さ

私が注目したのは吉村松子さんの「マイ・ワンダーランド」です。

彼女の描くイラストは、明るくカフナルな作風が特徴的で、色彩豊かな世界には優しい雰囲気、素直に暖かい感じがしました。乗り物や旅の思い出、何気ない日常の出来事など、自分の考えていること、感じていることがストレートに表現されつつも、そこから何が生まれていくのだからと想像の世界が広がります。

自分のイメージだけで描く自由奔放さ、驚きに満ちた不思議の王国、感動を覚える時空間など、見る者はその夢や幻想的な世界に誘われます。この作品には、キフリと光るセンスとユーモアがいっぱいで、眺めているだけでも楽しくなります。

これからの質の高いデザインの追求とともに、自分の長所やいいと信じるもの、自分が得た刺激を大事にして、新しいイラストの可能性を探る試み、誰もが楽しめる作品制作を続けてください。



【上】「月の詩」

佐井 国夫 氏



静岡文化芸術大学特任教授、名誉教授
グラフィックデザイン演習、
インダストリアルグラフィックス、
パッケージデザイン特論

【推薦作品】

「マイ・ワンダーランド」吉村 松子（社会福祉法人 富岳会）



【上】「マイ・ワンダーランド」 【下】「ジュラ紀」



海野 俊彦氏

いけばなと煎茶道の二つの世界で
日本文化を探究
国風華道会三世家元
煎茶道静風流二世家元

【推薦作品】

「遠州灘と富士」 田中 優気（浜松市）

田中さんの作品は、視点、構図、技法、色使いなど大変独創的なテ
クニックと想像を絶する根気で絵を完成させています。対象となる
景色の切り取り方も大胆で、どの絵も画用紙の大きさが足りていな
いような不思議な感覚に落ち入るのが不思議です。単なる絵具で書
いた絵ではなく、色紙を細く丸めたりしたものを張り付けて筆の代
わりを果たし、これまでにない立体的な絵画の世界を生み出してい
るところは、新しい絵画の分野を生み出していて本当に素晴らしい
と思います。

私も健康者と思われる人間も、何らかの欠点を多数抱えてお
り、障がいのある方との差がどれほど実際にあるのか、判断に悩み
ます。むしろ田中さんをはじめとして、多くの作家の皆さんの作品
はどれも個性的で、平凡な私達よりもずっと鋭い洞察力を持って物
事や景色の本質を見抜いている気がします。表面上の形だけでなく、
そこにある潜在的なエネルギーを読み取り、色彩も単に見えて
いる色以上のものを感じ取っているようです。健康者以上の能力を
持った作家の皆さんの素晴らしい作品が、多くの市民の目に触れる
ことを願って止みません。

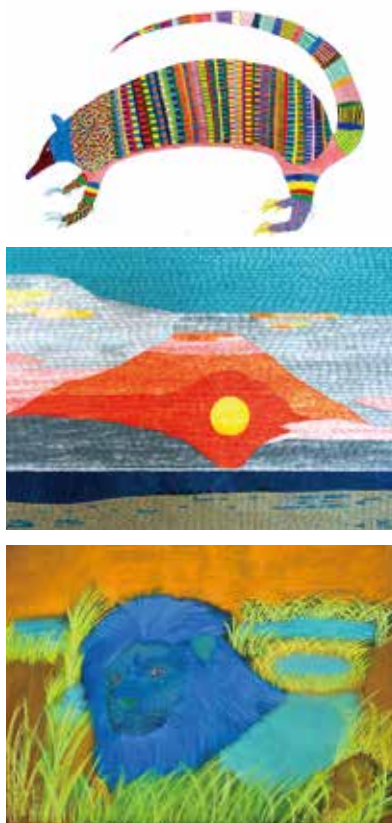
す。細かな曲線やグラデーションなど、細部までこだわり抜かれた
作品には強い集中力が感じられ、本当に真似できない唯一無二の魅
力があると思います。

オフィスにまちじゅうアートの作品を展示するようになってか
ら、増え続けている素敵な作品からお気に入りの作品を選ぶのが毎
回楽しみになっています。ポータルサイト「ふあいんだー」上の写真
からでも素晴らしいさは伝わりますが、実物の作品はその迫力や色彩
の鮮やかさが格別で、より一層魅力を感じます。

力強い作品や色鮮やかな作品を展示することにより、オフィスの
雰囲気明るくなりました。3ヶ月毎に作品の入替をしているので、
事務所の雰囲気も変わり、変化を楽しむことができます。

また、作品を通じて障害のある方々の思いに触れることは、社会的
な理解を深めるきっかけになると感じます。

さらに、作品を活用することによって、障害のある方々の経済活動
や自己表現の場、地域社会との繋がりを深める支援にもつながり、そ
の魅力が多くの人に伝わることで、障害者アートの発展に繋がるの
ではないかと思っています。



【上】「アルマジロ」河村竜太郎(waC)
【中】「夕日(遠州灘)」安岡佐恵
【下】「青いライオン」櫻井陽菜(waC)



【上】「遠州灘と富士」 【下】「夜の世界」

応援者からのメッセージ紹介

まちじゅうアートを活用されている方々からメッセージをいただきました。

株式会社エンケイエンジニアリング

鈴木 姫菜乃氏

障害のある人の作品の魅力は、私たちでは
思いつかないような「色使い」と「技法」です。

動物を虹色で表現したり、絞り染めの和紙
を丁寧に貼り付けて作品にしたりと、想像を
はるかに超える発想にいつも驚かされていま



私自身、今までは障
害者アートの存在を
知りませんでした。が、
まちじゅうアートを
きっかけに「障害者
アート」に興味を持つ
ようになり、ふじのく
に芸術祭障害者文化

芸術部門に訪問させていただきました。私たちが普段考えもしないよう
な色使いや技法、発想に触れることで、感性が豊かになり、刺激されるこ
とが多いです。障害者アートをきっかけに新たな視点を得ることができ
ました。

現在、障害者アートなどの活動を通じて、少しずつ社会の認識が変わり
つつありますが、今後さらにその活動が広まっていくことが理想です。公
共施設などに障害者アートの展示が増え、より多くの方に「障害者アート」
の存在を知っていただけたらと思います。

また、通常の生活を送っているだけでは障害のある方々がどのような
生活をして、どのような支援があるのかということを知ることがないの
で、そのようなことを知る機会を社会・企業として増やすことも重要だと
感じました。

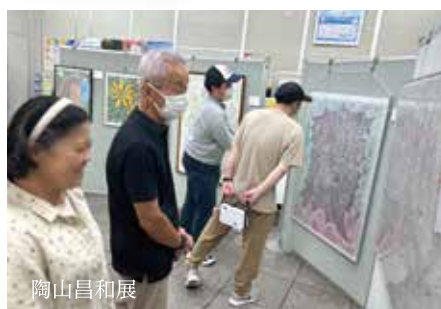
障害のある方々が個々の特性を尊重され、社会の一員として平等に活
躍できる環境が整備されることが重要だと考えます。弊社では、アンブ
ティサッカーチームの支援応援や、障害者雇用促進セミナーへの参加障
害者雇用を積極的に推進しております。今後は支援学校の生徒さんたち
のインターンシップ受入なども検討していきたいと考えております。



ひろせりんこ展



ひろせりんこ展



陶山昌和展

豊かな感性と溢れるパワーを体感できる展示会

東部

今年度も東部地区では様々な場所でも多くの方に作品を観ていただく機会を創出することができました。「かの川キラキラ映画祭」を主催する団体「静岡県東部発達障害者支援センターアスタ」から共催として展示の依頼をいただき、沼津市にあるプラサヴェルデにて1日のみの開催でしたが、多くのお客様にお越しいただきました。また沼津市の観光名所である沼津港大型展望水門「びゅうお」では2回展示の機会をいただき、静岡県内だけでなく、観光に訪れた県外の方・外国からのお客様に「障がいのある人のアート作品」を知ってもらうことが出来て広報活動として有意義な展示会になったと思います。

また、作家さんが展示会に在廊してお客様を案内する、といった展示会も開催され、お客様に直接作品を説明し魅力を伝えより作品を楽し

みらーと東部
支援コーディネーター 伊藤 享子

んでいただけ、また作家さんも喜びに溢れて今後も制作に取り組んでいこうと積極的になった様子も伺うことが出来ました。多くの人が絵の素晴らしさを知り、繊細さや感性の豊かさ、あふれるパワーをもらって帰られる、そんな展示会を今後も続けていきたいと考えています。



びゅうお展 waC・atelier QUOKKA・
静岡県立富士特別支援学校富士宮分校



展示会DATE
●「みらーと風を創るひとたち ひろせりんこ展」プラサヴェルデ(沼津市)令和6年4月6日(土) ●「みらーと風を創るひとたち 陶山昌和展」ギャラリープラザ(沼津市)令和6年6月17日(月)～6月21日(金) ●「みらーと風を創るひとたち 東部展」沼津港大型展望水門「びゅうお」(沼津市)令和6年7月20日(土)～8月1日(木) ●「みらーと風を創るひとたち ひろせりんこ ぜんぶねこ展」沼津港大型展望水門「びゅうお」(沼津市)令和6年10月5日(土)～10月17日(木) ●「みらーと風を創るひとたち 東部展」さくらフェスタin長泉2025(長泉町)令和7年3月22日(土)

伝える

みらーと風を創るひとたち展

活動報告

作品が語り、街と人が近づいた。
アートがつなぐ出会いと交流の場。



びゅうお展 展示作品を見つめる来場者



アートを通じた共生社会の実現

中部

みらいと中部
支援コーディネーター 田代 大輔

みらいとでは多くの方に障害のある人の作品を見ていただき、障害のことを知っていただくことを目的に、地元の企業や地域と連携した展示会を開催し、より多くの地域の方に作品を見ていただけるように活動してきました。

多くの展示会では「風を創るひとたち」というタイトルを掲げ、障害のある人の表現の可能性を広めるとともに、アートを通じた共生社会の実現を考える機会を提供できました。

多くの来場者から、「障害の有無に関わらず、純粋にアートとして素晴らしい作品が多かった」「アートの想いや背景を知ること、作品や障害への理解が深まった」といった感想が寄せられました。

今後もアート展を継続的に開催し、より多くの方々に障害のある人の作品の魅力を届けられるよう取り組んでいきます。また、静岡県障害者芸術ポータルサイト「ふあいんだー」のWEB美術館の拡充や、企業・教育機関・地域などとの連携を強化し、アーティストの活動を支援する仕組みをさらに発展させていきたいと思います。

対話が生まれる展示会

西部

みらいと西部
支援コーディネーター 鈴木 結子

「今年も楽しみにしていました！」と、会場や作家さんから声を掛けて頂ける事に感謝しながら展示会を開催し、多くの方にご来場頂きました。

どの作品も其々の捉え方、感じ方があり、観る人によって感想が異なります。

お越し頂く方の中には、一つの作品をじっと見つめる方、作品とキャプションを交互に見比べて制作過程に思いを馳せる方、様々ある作品の中からお気に入りを見つける方等楽しみ方もそれぞれ。中には、「油絵だと思ったら貼り絵だった！」と驚かれ、一度通り過ぎた作品に戻って見つめる方も多くいらつしやう、思いがけない出会いを楽しんでお

られる様子が印象的でした。

また、出展作家さんにも展示の場に多く足を運んで頂きました。

見慣れた自分の作品、仲間の作品のみでなく、初めて触れる「今まで知らなかった人」の作風に刺激された方もいらつしやるようです。

作家さん同士も作品を通して対話している印象でした。

出展頂いた方の中には、みらいと展示会への作品出展をきっかけに、満を持して個展を開催された方もありました。

みらいと発信の展示会だけでなく、自分でもすそのを広げ挑戦する姿勢はとてもカッコ良いと思います。



【左上段】アピタ静岡店(静岡市)【左下段】“つなぐ”アート展 静岡ガスエネリアショールーム柿田川(清水町)

【右】大道芸ワールドカップ静岡市民文化会館 ロビー(静岡市)

展示会DATE

●「アピタ静岡店」(静岡市) 令和6年5月30日(木)～6月5日(水)、出展点数:8点(waC×2、草笛の会×3、わらしな学園×1、ちいさなアトリエ×2)、来場者数:約300人
●「フェスタシズウェル」静岡県総合社会福祉会館シズウェル(静岡市) 令和6年8月24日(土)、出展点数:7点(waC×5、QUOKKA×2)、来場者数:約500人
●「つなぐ」アート展 静岡ガスエネリアショールーム静岡(静岡市)/柿田川(清水町) 令和6年10月5日(土)～10月14日(祝・月)、出展点数:絵画22点、(waC×5、QUOKKA×5、(福)ハルモニア×6、(福)ラルシュかなの家×6)、来場者数:500人 ●「大道芸ワールドカップ in静岡2024」静岡市民文化会館大ホールロビー(静岡市)、令和6年11月1日(金)～11月4日(祝・月)、出展点数:絵画10点、(waC×8、QUOKKA×2) 来場者数:500人

展示会DATE

●「風を創るひとたち展」中東遠総合医療センター2階「絵画の小径」(掛川市) 令和6年7月1日(月)～令和6年7月31日(水)、出展点数:25点(ワークスつばさ×6、なごみかぜ工房×1、風の森×1、風里×1、地域活動支援センターMネット×3、松井久悦(個人)×5、多機能事業所 一歩×3、まちじゅうアートレンタル×5、) 来場者数:約15,000人 ●「風を創るひとたち 西部展」浜松いわた信用金庫きらりタウン支店ギャラリー(浜松市) 令和6年8月2日(金)～令和6年8月29日(木)、出展点数:14点(恵松学園×5、遠江学園まつかさ×2、天竜ワークキャンパス×3、遠州みみの里×4)、来場者数:約150人 ●「風を創るひとたち 都田版2024」浜松市立都田図書館(浜松市) 令和6年10月1日(火)～令和6年10月31日(木) 出展点数:絵画25点、陶芸作品多数、(大村ごうき(個人)×5、清水優舟(個人)×2、遠江学園ひくまの×6、グレース工房×6、細江あすなろ作業所×6、これびの家/青葉の家)、来場者数:10,055人(入口のセンサー調べ) ●「風を創るひとたち展」これっしか処「これっしか処」ギャラリー(掛川市) 令和6年11月5日(火)～令和6年11月10日(日)、出展点数:絵画8点、立体造形多数(地域活動支援センターしおかぜ×3、ここ余るん(個人)×5、デンマーク牧場いぶき) ●「風を創るひとたち 西部展」浜松市鶴江アートセンター(浜松市) 令和6年11月28日(木)～令和6年12月1日(日) 出展点数:絵画15点、立体造形多数(安間佐恵(個人)×5、アマンダ(個人)×5、戸田健矢(個人)×5、高橋舞(個人) 立体造形、刺繍作品多数、浜松未来総合専門学校グラフィックデザイン科3年生×32)、来場者数:101人



表現と知的財産権



cento- シェント - 福祉と表現にまつわる研修会
「表現と知的財産権について学ぼう」に参加してきました。

2025 年3 月11 日(火)13:30～16:00

会場：あさかホスピタル コリブリホール(福島県郡山市安積町笹川字経坦45)

主催：社会福祉法人安積愛育園 はじまりの美術館

「表現と知的財産権について学ぶ」ため、福島県で行われた社会福祉法人安積愛育園 はじまりの美術館主催の研修会に参加してきました。

これは、福島県障がい者芸術文化活動支援センター事業として、はじまりの美術館で行われている「知的財産権ってなに?」「作品や表現をグッズなどにすると、どういふことを大切にするといふの?」など、「福祉と表現」をテーマとした研修会です。

今回は、奈良県の「たんぽぽの家」スタッフ、後安美紀さんを講師に、「表現と知的財産権」を学ぶべく、表現を社会に発信するときに必要な考え方、表現を守りつつ広めていく方法としての知的財産権について、クイズやゲームを交えながらの研修に参加しました。

会場では指定されたいくつかのテーブルに分かれ、初顔合わせの参加者と交流するとともに、「知財でポン」というたんぽぽの家が開発した知的財産権を楽しみながら学ぶ体験する学習カードゲームを通して触れ合い、積極的な意見交換の後にチーム発表を行うものでした。

参加者は福島県文化芸術活動支援センター職員や地元の福祉支援者、学芸員、保護者、事業経営者、利用者本人など様々。それぞれの活動の観点から様々な意見交換が行われ、貴重な参考意見や具体的な相談対応と成果、活動アイデアや問題点など活発な意見交換が行われ充実した研修となりました。他県のセンターとのこうした交流によって静岡県で行っている活動について再確認することができたことも大きな成果と感じました。

3. Seminar

支える

支援人材育成セミナー活動報告

私たちの持っている知識や経験、
専門家が持っている豊富な実績とノウハウ。
様々な方々と共有しお互いに成長を願い協力していきます。



【上段】浜松未来総合専門学校グラフィックデザイン科のプレゼンテーションの様子

【下段】学生が考えたデザイン案の数々



【左】「風を創るわたしたち」セミナーの様子



【右】浜松未来総合専門学校グラフィックデザイン科での様子

共生社会実現への期待

中部

みらいと中部
支援コーディネーター 田代 大輔

静岡大学グローバル共創科学部の授業の中で、障害者アートの魅力や取り巻く環境、みらいとの活動内容、障害者芸術文化活動普及支援事業などについて講演を行いました。90分の授業の中で、前半は障害者文化芸術推進法や障害者芸術文化活動普及支援事業のことなど、障害のある人のアート活動に対する支援の必要性などを講演し、後半は作家の背景や作品を紹介しながら障害者アートの魅力について紹介していきました。講演の最後は共生社会について考える小課題を提示させていただきました。後日、小課題に対するコメントペーパーをフィードバックしていただきましたが、社会ではまだまだ障害に対する理解が不足していると感じる反面、問題に対するユニークな考えにも触れることができ、学生たちの今後の活躍に期待が膨らみます。

西部

みらいと西部
支援コーディネーター 鈴木 結子



写真は前年度の授業の様子です。

みらいと支援人材育成セミナー 「風を創るわたしたち」

11月28日～12月1日にかけて実施した展示会の中で、作家さんと浜松市内のアーティストを支援している「浜松アーツ&クリエイション」の矢川理乃さんをお招きし、支援人材育成セミナー「風を創るわたしたち」を開催しました。

ご登壇頂いた浜松市の作家戸田健矢さんからは、アート制作を開始したきっかけの出来事や恩師との出会い、その後の活動展開、現在とこれからに向けての自身の思いについて熱意を持ってお話をして頂きました。

浜松アーツ&クリエイションさんからは、浜松のアート事情やギャラリーの事等、浜松の現状についての説明や戸田さんの活動や理念についての対談が行われ、参加者の皆様も熱心に耳を傾けていました。

質疑応答も白熱し、時間が足りないほど！セミナー終了後も戸田さんを囲んで様々な質問や感想が飛び交い、障害のある人たちのアート活動への思いを知り、今後に繋げる為の支援の仕方について模索している様子が感じられました。

浜松未来総合専門学校 グラフィックデザイン科との連携

浜松未来総合専門学校の小杉和己先生ご指導の下、浜松市内の2事業所が製作している「ふじのくに福産品」と、浜松未来総合専門学校グラフィックデザイン科の学生によるコラボデザインの授業が今年度も行われました。

オリエンテーションではみらいとの活動紹介や各事業所の説明の後、デザイン提案する福産品の実物を手に取ったり、作業工程を体験したりしながら、デザイン案を膨らませます。

毎年様々なアプローチのデザイン案が制作され、中には商品化して既に販売されているものもあります。

「グラフィックデザイン×福祉」というと、一体何ができるのだろう？と思われる事もあるかもしれませんが、しかし、デザインの力によって福産品の魅力がさらに高まり、またデザインを学ぶ学生さんにとっても自身の腕を試す貴重な実践の機会となっています。

芸術表現への考え方が180度変わった瞬間

ください！」と直談判。興奮冷めやらぬ中で返事を待ちました。しかし返事は意外にも「ノー」。やはりしがないギャラリーでの開催は難しいのか……と諦めかけた時、その女性が静かに続きを話し始めました。

「この作家は私の娘なんです。知的に障害がありまして、あなた様と直接にお話をすることが難しいと思いついて。でもありがたいお言葉でとても嬉しく思います。ありがとございませう。もしよろしければ娘に絵を教えてくださっている方を紹介いたしますので会ってみてはいかがでしょう？」

それまで、福祉にも障害のある方々への意識も接点もなかった私。この衝撃的な展開にその時は言葉が出ませんでした。この出会いが「芸術表現」への考え方がまさに180度変わり、そして新たな世界へ踏み出すきっかけとなるのでした。

それからというもの、障害のある方の描いた作品のみならず作家本人、支援者に会いに行ってはコミュニケーションを重ねる日々が始まりました。

そこには輝いている人たちの笑顔がありました。そして障害

ちょっと COLUMN コラム

とき その瞬間1枚の絵画が わたしの人生を大きく変えた

たまたま入った展示会で衝撃の出会いを果たす

私が初めて「障害のある方の作品に魅せられた瞬間」は今でも鮮明に覚えています。

2016年当時の私は、静岡市内でデザイン事務所を営みながらギャラリーを運営しており、日々アーティストの方々と企画を練り、展示会を開催する日々を送っていました。静岡のアートシーンをもっと盛り上げたい、そんな思いの毎日でした。

芸大美大出身の美術家の絵画や日本画、海外留学経験者の彫刻、プロのカメラマンの写真、芸大美大受験予備校のデッサンや色彩構成作品、イラストレーターのイラストレーション、県内大学の美術系学部のインスタレーション作品、静岡のクリエイターによる作品、果ては書画まで様々な作品を取り扱っていました。

みらーと
アートディレクター 遠藤 次朗

時に東京銀座の画廊をまわり、経営する方々や学芸員からお話を聞いたりして独自の展示アイデアをどう形にしているのかに悩む日々でもありました。

ある日、いつものように作家を探してギャラリー巡りをしていると、目当ての展示会とは違う会場で女性作家の絵画展がひっそりと行われているのを目にしました。「一応見ておこうか」程度の感覚で、さほどの期待も持たず会場に入りました。

しかしそこにあった作品は、ダイナミックな構図に色彩豊かに描かれたユニークな表現で、生き生きと元気な「光」を放っていました。私は絵から溢れる輝きに一瞬で魅せられ夢中になってしまいました。それはまさにそれまでにない「新しい表現」との衝撃的な出会いでした。

私はすぐに会場の受付に居た女性に名刺を渡し、丁寧に挨拶をして「この作家の方の企画展を当ギャラリーで開催させて

自分が心地良い、気持ち良いと感じる作品を 自分のために描くその姿に嫉妬

のある作家の多くは、独自の世界観で思うがままに自由に描いていました。言葉の出ない人も、体の動かない人も自分が心地良い、気持ち良いと感じる絵を自分のために描いている姿がそこにはありました。そして没頭するその時間を誰もが楽しんでいるように見えました。傍でその姿を見た時、心から羨ましく感じ、嫉妬したことを今でも覚えています。人目ばかりを意識してこれまで生きてきた自分から解放された気がしました。これまでにない新しい価値観が私の心のどこかに芽生えていました。

全く無知だった私が今こうしてアートに触れる豊かな日々を送れているのも、あの展示会の作品との出会いのおかげです。あの場であの作品を見なければ今の私は無かったことでしょう。1枚の絵画が人生を変えるほどの力を持っていることに今更ながらに驚きを感じます。

健常や障害の枠を超え、この豊かな美術シーンをもっと色々な人に知っていただきたい。私がそうだったように、驚き、笑い、感動しファンになって欲しい。そんな力が彼らの作品にはあります。

あの日以来私は、作品や作家の魅力を伝え、新しい価値を創造し、繋げていくことを使命としました。

福祉とアートの発展においてはまだまだ課題は山積みですが、描くことに没頭している作家の傍で、充実した時間を共有できることに今日も幸せと豊かさを感じ、尊敬と感謝とワクワクがとまりません。





ブルービート（伊豆の国市）音楽ワークショップの様子



地域と福祉が「つながる」ワークショップ

東部

みらいと東部
支援コーディネーター 伊藤 享子

今年は東部地区で初めて、多面的な効果が期待できる音楽会を福祉事業所内で開催しました。

事業所の支援員、利用者さんが主となり様々な楽器を用いて演奏し、また地域で活躍されている打楽器奏者の方、長きにわたり沖縄民謡を歌ってこられた方をお招きし演奏を鑑賞しました。

地域企業の方、特別支援学校の先生、福祉に携わっている方、障害がある方・ご家族等も参加し、楽器ができる・できないにかかわらずセッションして楽しむ企画もあり、多方面に「つながる」ことができた音楽ワークショップ。音楽が大切な自己表現のツールということを見すると同時に、楽器演奏を通じた身体のリズム感覚や、触覚の刺激による運動機能の向上にも効果が期待できます。福祉事業所と地域との「つながり」も今回の機会が増えた効果もありました。

今後もし引き続き絵画制作だけではなく、音楽のワークショップも取り入れて企画していきたいと考えています。



【左】とも沼津店で開催したイルカ工房ワークショップの様子【中】静岡県立沼津特別支援学校中学2年生を対象に開催したワークショップの様子【右】道の駅伊豆ゲートウェイ函南ワークショップの様子



支える

4. WorkShop

ワークショップ活動報告

絵画や音楽が福祉と地域をつなげた

言葉ではなかなか伝わらないことも
絵画や音楽を通して
新しい形のコミュニケーションが生まれます。
それは本人も家族も支援者も果ては地域も
皆が喜びを感じる瞬間。

ブルービート（伊豆の国市）音楽ワークショップの様子
リズムに合わせ楽しそうに打楽器を叩く参加者



四季の郷ワークショップの様子



ダンサーの踊りに魅せられて



一緒に演奏を楽しむ参加者

様々な分野の体験の機会

静岡市内の福祉事業所で、軽量カラー粘土を使ってお面を制作するワークショップを開催しました。無地の紙製のお面と各色の軽量粘土を準備し、好きな色の粘土をお面に貼り付けて思い思いの作品を制作しました。大きな塊を躊躇なくどんどん積み重ねていく人や、粘土の感触を楽しんでいるのか、貼り付ける前に入念に粘土をこねている人など、取り組み方は様々です。モデルは自分であったり、親であったり、福祉事業所の職員さんであったり、色々な顔を制作し楽しんでもらえたようです。

もう一つは、音楽鑑賞のイベントとして行われた「look@me」の中で、指揮者体験とリトミックのワークショップを実施しました。指揮者体験では指揮者の奔放なリズムに翻弄されるアンサンブルの演奏が客席の笑いを誘っていました。リトミックでは、ステージと客席が一体となって、歌ったり踊ったりと楽しい時間を過ごせました。

今後美術だけでなくとどまらず、様々な分野の体験の機会をつくっていききたいと思っています。

中部

みらいと中部

支援コーディネーター 田代 大輔

西部

みらいと西部

支援コーディネーター 鈴木 結子

即興音楽家とダンサーを迎え「社会福祉法人昴会 四季の郷」の中にある気持ちの良い中庭で音楽ワークショップを開催しました。前半は即興演奏とダンスを堪能、その後は机いっばいに並べられた楽器を触ってみたり、ダンサーさんが用意して下さった色とりどりの布を体に巻き付けながら踊ったり、その様子をのんびりご覧になっていたりと、各々が好きな形で楽しんでいました。

アート制作の面では、毎年5月に開催される連合湖西主催の「メーデー」にてみらいとワークショップのブースをご用意頂き、キッ

トパスと浜松市内の福祉事業所が手掛ける手漉きハガキを使用した「オリジナル絵葉書」を制作するワークショップを開催しました。

障害のある人たちが携わる製品を使用したワークショップを通して、障害や障害のある人について思いを巡らせるきっかけとなっていると嬉しいのです。

また、今年度は袋井市教育委員会、ご協力の元「静岡県立袋井特別支援学校」と「静岡県立袋井高校」による学校間交流にも参加させて頂きました。

両校の「校歌」をモチーフにした下絵に生徒さん達が用意したパーツを張り付けて、一枚の大きな作品を完成させていきます。

先生方のきめ細やかなサポートもさることながら、当日は生徒さん同士すぐに仲良くなり、お互いに楽しみながら制作していた様子が印象的でした。



メーデーイベントワークショップ



学校間交流授業の様子



校歌をイメージして完成した作品

芸術を通じて社会との交流や理解を深める支援

今年度も様々な地域の文化機関、企業等に「障害者文化芸術」を知ってもらう機会をいただきました。またポータルサイト「Findart（ふあいんだー）」内、オンラインでの展示（ふあいんだー美術館）に掲載され世界中の人々にアートを届けたい、展示会に応募して賞を取りたい等、事業所の支援員の方からの熱い想いを感じ取ることができた一年でした。

絵画オープンアトリエでは、最初絵を描くことに苦手意識があった方も表

東部



みらーと東部
支援コーディネーター
伊藤 享子

東部

参加者に寄り添った“楽しい時間”をこれからも作っていきます。



5. Message
夢を描く～次年度に向けて～
支援コーディネーターからのメッセージ

さしだ希望の里(南伊豆町)オープンアトリエの様子

東・中・西部支援拠点 相談データ

静岡県は東西に広いため、東部、中部、西部と地域毎でも取り巻く環境も、意識も考え方も微妙に異なる印象があります。地域や特性によって相談の内容も様々です。みらーとは、障害のある人や表現活動をサポートする支援者の悩みの解決に向けた活動を連携して行っています。

全県下

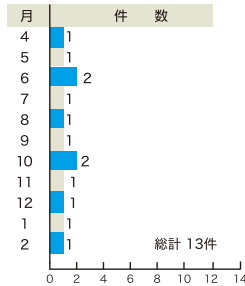
【相談分類別件数】

相談分類	件数
鑑賞（鑑賞機会、鑑賞支援等）	0
創造（創作環境、支援方法等）	2
発表（発表したい、開催したい）	10
交通・連携（ネットワークづくり等）	0
調査研究・保存	0
権利保護（二次利用、商品化、販売）	0
人材育成（研修・講師の情報等）	0
情報発信（取材、広報）	0
その他	1
合計	13

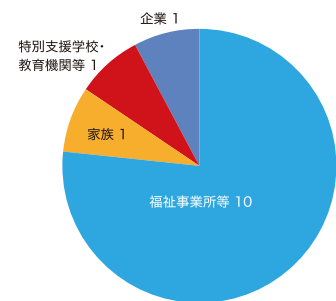
【調査訪問件数】

月	訪問件数
4月	17
5月	11
6月	15
7月	10
8月	10
9月	9
10月	12
11月	10
12月	12
1月	11
2月	9
合計	126

【月別相談件数】



【相談者種別】



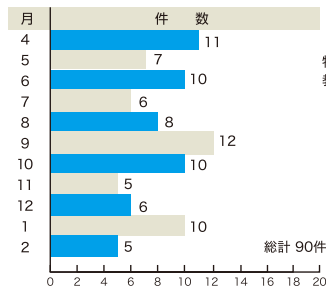
【相談分類別件数】

相談分類	件数
鑑賞（鑑賞機会、鑑賞支援等）	0
創造（創作環境、支援方法等）	28
発表（発表したい、開催したい）	38
交通・連携（ネットワークづくり等）	2
調査研究・保存	2
権利保護（二次利用、商品化、販売）	7
人材育成（研修・講師の情報等）	2
情報発信（取材、広報）	9
その他	2
合計	90

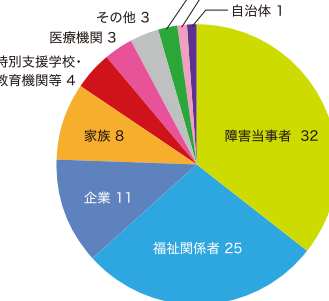
【調査訪問件数】

月	訪問件数
4月	37
5月	45
6月	42
7月	38
8月	29
9月	38
10月	37
11月	33
12月	43
1月	40
2月	23
合計	405

【月別相談件数】



【相談者種別】



「アート活動をやって、
その後どうしていきたいか？」

「アート活動をやって、その後どうしていきたいか？」
みらーとの活動を実践している中で、よく考えるようになった問い掛けです。
作品を描いている時間が楽しい、ワークショップを楽しみにしている。ではその先はどうしようかと考えた時、すぐに答えが出て来ないと思われる事も多いと思います。
制作活動や表現活動は「仲間内だけで向き合う」と思ってしまうと、自由な表現をしているようで型から抜け出せなくなり思うようにいかない事もあるかもしれません。例えば他の人や団体はどうしているのかなと目を向けたり、話を聞いてみたりすると、案外簡単に解決の糸口が見つかる事もあります。そうした対話の場、お互いが相乗効果で盛り上がる場づくりが意識出来るように、私も活動していきたいと思っています。

西部



みらーと西部
支援コーディネーター
鈴木 結子

中部



みらーと中部
支援コーディネーター
田代 大輔

相談者の立場に寄り添った提案を

障害のある人やご家族、障害福祉関係者からの相談をはじめ、教育機関や企業などから多様な相談が寄せられました。内容としては、発表の機会を求める相談やイベント開催の協力要請、著作権等の権利保護に関する相談が多く寄せられました。また、就労支援施設からは福産品の売り上げを伸ばし、工賃を向上させるために、利用者が制作したアートの二次利用の相談もありました。
今年度の活動を振り返り、多様な分野で文化芸術活動にかかわる方々のご協力をいただくことができ、この場をお借りしてお礼申し上げます。今後も各方面の専門家の方々のご協力をいただきながら、障害のある人たちの支援活動に活かしていきたいと思っています。

西部

“楽しい”のその先を考える時間が増えました。

当事者から

【相談内容】発表の機会について

みらーと主催の展示会に出展したが、今後も作品を発表する機会を増やしたい。

【対応】作品展開催を勧め、ギャラリーを案内した。

福祉事業所の職員から

【相談内容】ポータルサイト「Findart」への作品掲載について

利用者がアート作品を制作しており、ポータルサイト「Findart」に掲載したい意思がある。掲載は可能か。

【対応】作品を拝見し、撮影及び作家へのインタビューを実施。内容を元にポータルサイト「Findart」へ掲載した。

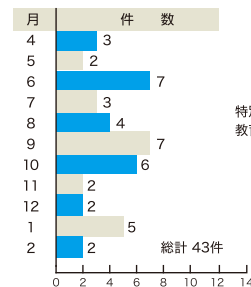
【相談分類別件数】

相談分類	件数
鑑賞（鑑賞機会、鑑賞支援等）	0
創造（創作環境、支援方法等）	13
発表（発表したい、開催したい）	18
交通・連携（ネットワークづくり等）	0
調査研究・保存	1
権利保護（二次利用、商品化、販売）	3
人材育成（研修・講師の情報等）	0
情報発信（取材、広報）	7
その他	1
合計	43

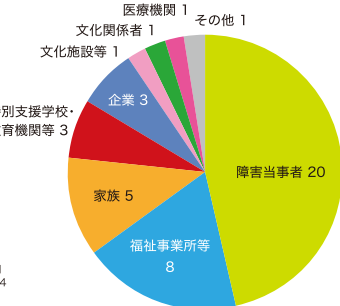
【調査訪問件数】

月	訪問件数
4月	12
5月	23
6月	15
7月	18
8月	11
9月	19
10月	15
11月	13
12月	20
1月	19
2月	8
合計	173

【月別相談件数】



【相談者種別】



中部

様々な団体からの相談に、多くの方のご協力を得て
応えることができました。

文化団体から

【相談内容】アート展開催について

毎年市内で世界的な規模のイベントを開催している。ノーマライゼーションの取り組みにも力をいれており、障害のある人が描いた絵画を展示したい。

【対応】イベントのテーマに沿った絵画を選定し、障害のある人が描いた絵画を展示した。

医療機関から

【相談内容】発表の機会について

通院している患者さんがイラストを描いているが、モチベーションを継続するために人に見てもらう機会が欲しい。

【対応】患者さんの背景などをヒアリングし、作品画像を送ってもらい、ポータルサイト「Findart」に作品を掲載をした。

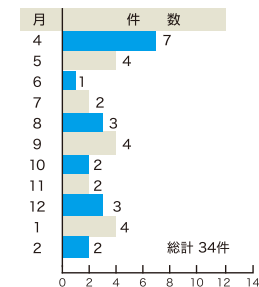
【相談分類別件数】

相談分類	件数
鑑賞（鑑賞機会、鑑賞支援等）	0
創造（創作環境、支援方法等）	13
発表（発表したい、開催したい）	10
交通・連携（ネットワークづくり等）	2
調査研究・保存	1
権利保護（二次利用、商品化、販売）	4
人材育成（研修・講師の情報等）	2
情報発信（取材、広報）	2
その他	0
合計	34

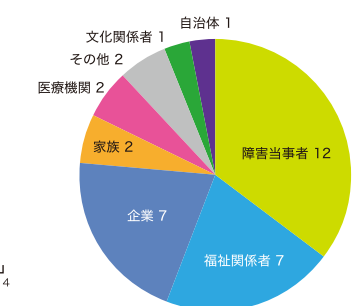
【調査訪問件数】

月	訪問件数
4月	8
5月	11
6月	12
7月	10
8月	8
9月	10
10月	10
11月	10
12月	11
1月	10
2月	6
合計	106

【月別相談件数】



【相談者種別】



世界は美しくなる

思いやる気持ちと感謝が大きな力を生む

富士市文化会館ロゼシアターで催された「みらーとアーツフェスタlook@me!2024コンサートに行こう!」に参加させていただきました。コンサートホールでクラシックという、厳かな雰囲気になるであろう状況とは裏腹に、会場への出入り自由、ホール内を歩き回っても大きな声を出してもOK、手話通訳もあり。参加する全ての人が気負うことなく一緒に歌ったり踊ったりと自由に楽しめる空間となっていました。

リハーサルでも本番でも全力を尽くすスタッフと参加者の方達を見て、相手を思いやり合い、全体のハーモニーが育まれ、感謝の気持ちが行き交い、こうやって世の中は美しい世界になっていくのだろうと感じました。プログラムを楽しませていただいたことはもちろんのこと、スタッフの方々のゴールを目指す姿、自然体で楽しむ参加者の方々の姿に胸を打たれました。心に響く1日をありがとうございます。



一般社団法人
南富士山シテイ代表理事
いわなみキッチン代表
井口 宏美

表現すること

大人も子どもも表現すると笑顔になる



西部地域
ボランティア
松岡 美里

勤務先の障害者事業所にてオープンアトリエを開催していただいた縁で、協力隊としてメーデーのワークショップに参加しました。

ワークショップでは子どもたちが多く参加し、短い時間の中、ハガキ大の紙に思い思いの絵を描き上げていました。自ら進んで描く子、親子でコミュニケーションをとりながら描く子等様々でした。描いた絵を母の日のプレゼントにする」と言う子もいました。

大人になると言葉による表現が主となり、絵を描くことに抵抗感を持つ方もいますが、創作を表現方法のひとつとして持つことは強みだと思います。この時に感想は聞けなかったのですが、事業所でのオープンアトリエの終了時はいつも「楽しかった、またやりたい」と笑顔がみられます。今思う何かを表現できているのでしょう。



増田 隆征(waC):「ワニ」 紙にペン・パステル